

# デジタル放送の難視聴推計

(市町村別ロードマップ(H19.9.13)による)

別紙 3-1

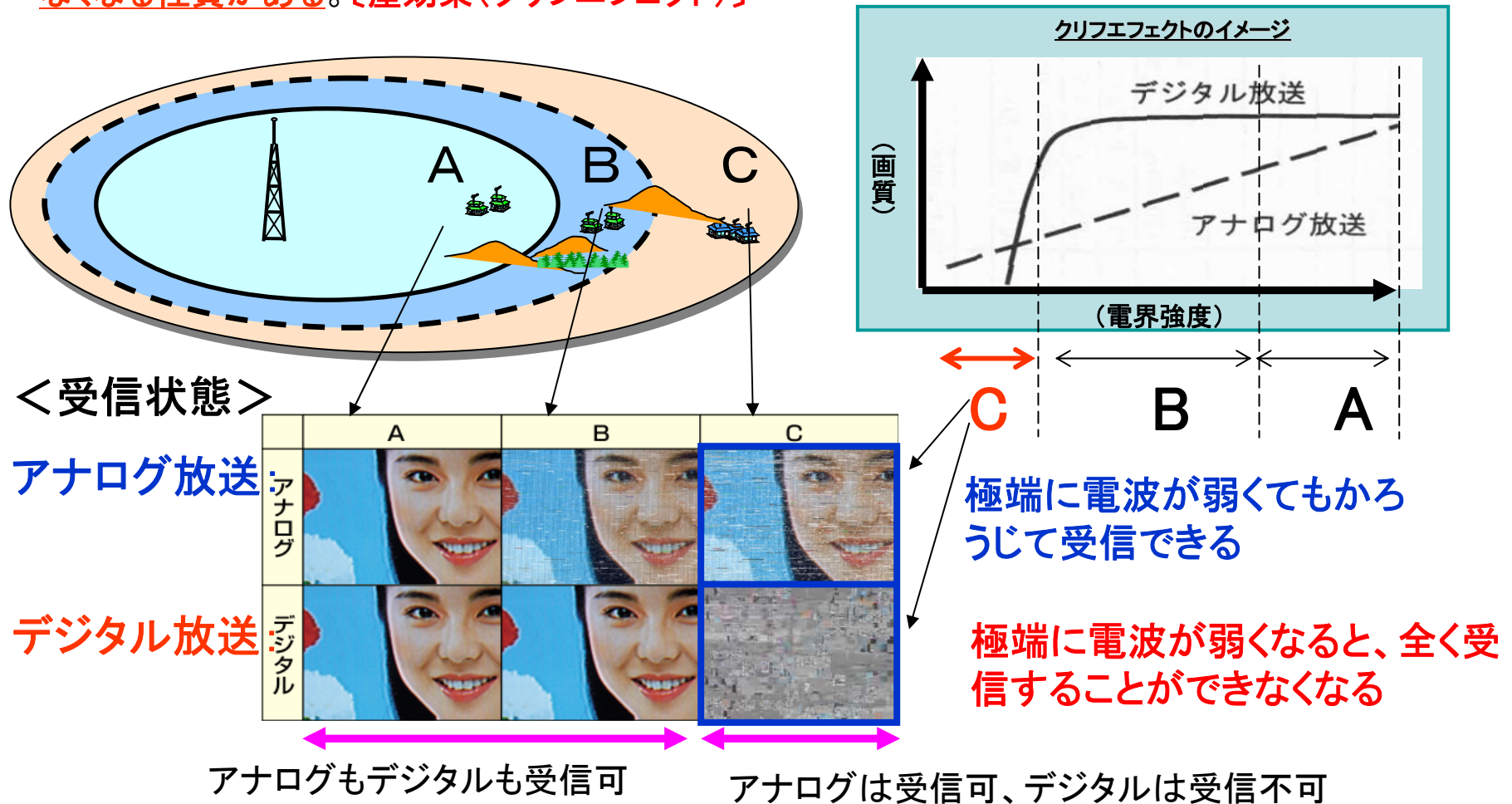
| 難視聴の区分  | アナログ          | デジタル | 九州の状況                            | 想定される対策   |
|---|---------------|------|----------------------------------|---|
| <b>①新たなデジタル難視聴</b><br>(原因)<br>・放送局の使用する周波数の違い(VHF→UHF)<br>・地形的な影響<br>・デジタル方式の特性(電波が弱いと画面が消える) | ○             | ×    | 最大<br><b>28,720世帯</b><br>(0.58%) | ・高性能アンテナへの取替え<br>14素子 → 20素子以上へ<br>・アンテナの調整(高さ、方向等)<br>・新たな共聴施設の整備<br>・ケーブルテレビの整備・加入<br>・自治体光インフラの活用<br>・衛星による補完措置 ほか |
| <b>②デジタル化困難共聴</b><br>(原因)<br>・もともと弱電界地域<br>・デジタル方式の特性(電波が弱いと画面が消える)                           | ○<br>ノイズあり    | ×    | 最大<br><b>12,740世帯</b><br>(0.26%) | ・共聴施設の受信点移設(大規模改修)<br>・自治体光インフラの活用<br>・衛星による補完措置 ほか   |
| <b>③アナログも難視聴</b><br>(原因)<br>・もともと極端な弱電界地域   | △<br>極端なノイズあり | ×    | 最大<br><b>22,540世帯</b><br>(0.45%) | ・衛星(BS)による視聴<br>(既存支援制度あり)<br>・自治体光インフラの活用<br>(・衛星による補完措置) ほか   |
|   |               |      | 計 <b>64,000世帯</b><br>(1.28%)     |   |

デジタル化に伴う新たな難視聴

※ 難視聴解消はあくまで地上系が基本。衛星による補完措置は暫定措置であり全国共通の番組となる予定(方法は検討中)

# ●「新たなデジタル難視聴」の主な原因

- ▶ **アナログ放送**: 電波が弱くなるにしたがって徐々に、雪が降ったようなスノーノイズ症状が出る「しゃへい障害」が発生。このため、極端に電波が弱くてもかろうじて受信できる。
- ▶ **デジタル放送**: 電波が多少弱くなって受信状況が劣化しても、誤り訂正機能により「きれいな画像」を確保。ただし、極端に電波が弱くなり、誤り訂正能力の限界を超えた途端、急激に受信することができなくなる性質がある。〔崖効果(クリフエフェクト)〕

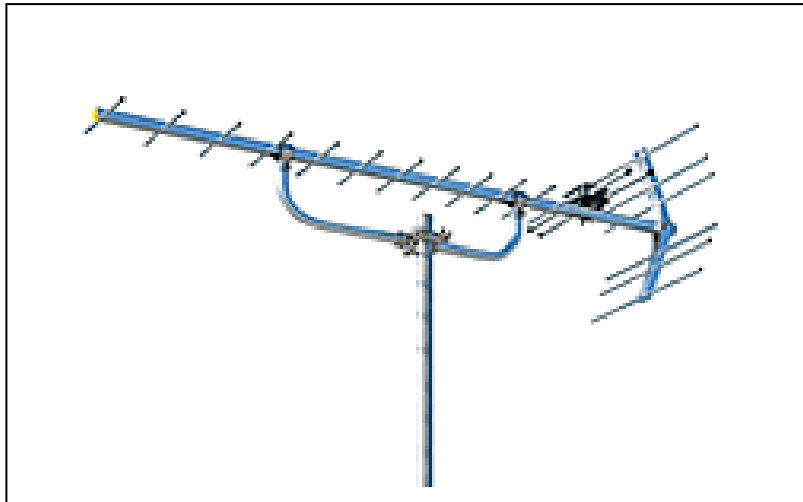




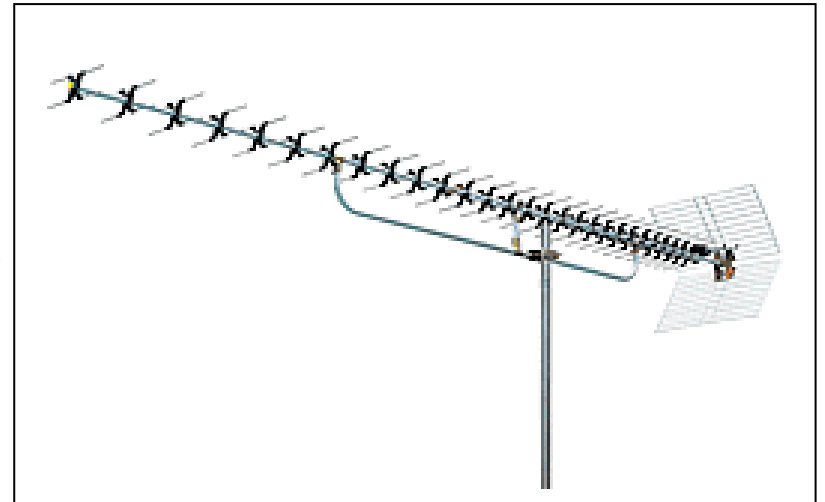
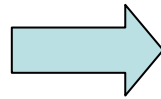
アナログ放送での  
極端なノイズ



デジタル放送では  
受信不可



標準的なアンテナ



高性能アンテナ

